

朝霧中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

資料2

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
朝霧中学校区	「認知症です。」と言えるまちづくり	1.認知症の正しい理解の啓発⇒キャラバンメイトやシルバーサポーターと協働し、地域住民に対して実施した。	認知症	・朝霧校区の人権啓発推進員と連携し小地域単位での認知症学習会を開催。高齢化率が高い、センターに相談が多いエリアを重点地域と考え、松が丘1丁目、2丁目、4丁目、5丁目、朝霧台、中朝霧丘、東朝霧丘、大蔵谷清水、朝霧3丁目地域を対象に10回、実施した。	自分自身の認知症予防には関心があるが、認知症である本人やその家族に対する関心は低いことが分かった。	・住民が認知症を正しく理解し、主体的にあいさつ、声掛け、オレンジサポーター養成講座等の認知症理解を進める活動に参加する。	・認知症予防だけでなく、認知症ご本人や家族の思いを知る講座を開催し、自分事として考える機会を増やす。	継続
		2.上記の取り組みの際に早期発見・予防の重要性を伝えた。	医療介護連携 地域ケア会議 包括的継続的	・松が丘小学校・朝霧小学校でオレンジサポーター養成講座を各1回開催した。	・キャラバンメイト・シルバーサポーターが積極的に認知症啓発活動に関わって頂けることが分かった。キャラバンメイト・シルバーサポーターが主体的に活発になる機会をつくることで、より活動的になるのではと考える。	・若い世代が認知症のことを理解し、地域の高齢者の生活に関心を持ち、あいさつ、声掛けが住民同士で行える。	・小学校と連携し子ども向けのオレンジサポーター養成講座を開催することで、あわせて保護者世代への啓発を行う。	継続
		3.住民参加の地域ケア個別会議の実施	地域ケア会議	地域ケア個別会議は未開催。	専門職と住民の連携ができており、今年度は開催に至らなかった。	・キャラバンメイト・シルバーサポーターを中心とした「チームオレンジ」の立ち上げと自立した活動ができる。	・キャラバンメイト・シルバーサポーターの主体的な活動を後方支援、住民自身が認知症理解を発信できるようになる。	中止
		4.成年後見制度・高齢者虐待予防の周知	権利擁護	令和5年11月27日開催の民生児童委員・介護支援専門員との交流会で成年後見・権利擁護について周知を行った。	権利擁護について、身近にあることとして意識は高まったが、高齢者虐待の通報に抵抗がある専門職もいることがわかった。	民生児童委員・住民・介護支援専門員が連携して住民の変化に気づき必要時にセンター等に相談ができる。	居宅介護支援事業所の巡回を通して出た意見をもとに介護支援専門員や介護サービス事業者等を対象に勉強会を開催する。	継続
		5.消費者被害の予防啓発	権利擁護	・地域の自治会長が集まる会合や地域サロン、自主活動グループにセンターが出席、消費者被害予防啓発チラシを配付し啓発を行った。	・消費者被害については、まちづくり協議会の役員会、理事会で毎月防犯協会からも情報提供されており、住民の関心は高い。	・地域住民が消費者被害に遭わないように、地域住民同士で声をかけあったり、地域住民が被害にあったと思われるときに速やかに相談窓口につながる事ができる。	啓発の出来ていない高齢化率が高い地区を対象に啓発活動を行う。	継続
		6.相談窓口の周知継続 ⇒地域のイベントや会議に出席した際や上記の取り組みの際に啓発を行った。また、年2回発行のセンター広報紙でセンターの役割や取組の広報を行った。	総合相談	・地域のサロンや自主活動グループ、高年クラブ、敬老会などの集いの場に出席、センター業務を説明、広報を行った。 ・個別事例訪問時に広報紙を配布し、センターの役割を周知した。	・センターを知っている住民が増えてきているが、どのような相談ができるのかがわかりにくいとの声を聞いた。	・住民が生活の困りごとがあったときに、適切な相談窓口につながる。	・引き続き啓発活動を行う ・自治会長へのセンターの役割を周知する。	継続

朝霧中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

資料2

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
県営松が丘自治会、明舞南県住自治会	『ハンドインハンド』	1.明舞南県住自治会 ・個別訪問でアンケートをとることで困りごとやニーズを住民自身が知ることができる。 2.関係形成のために健康教室やイベントを開催し、孤立予防をする。	生活支援体制 一般介護予防 認知症 一般介護予防 権利擁護	①明舞南県住の建て替え工事が完了し10月中に住民が入居した。住民同士の関係構築が出来ていない状況でアンケート調査は時期尚早と判断。住民のキーパーソンとの関係構築のため、センター地区担当と住民のキーパーソンで座談会を開催、地域で気になることやつながりづくりについての思いをヒアリングした。自治会長にセンターとの交流を打診し、1月23日に新しい集会所で座談会を開催した。	明舞南県住の高齢化が進む中で新旧の住民の新しいコミュニティづくりが必要と考えるが、センター主導で住民への個別アンケートはハードルが高く、住民の抵抗感があると思われた。座談会の中でもセンターの役割の周知が話題となっていた。建替え前の集会所の時から続いている集いの場に訪問、センターの役割を周知することが必要であるとわかった。	・新旧住民が顔の見える関係が出来、生活の困りごとをお互いに支え合うことができる。 ・困りごとがあるときに住民同士で適切な相談窓口につながる事が出来る。	・住民のキーパーソンと話し合いを進めながら、すでにある集いの場を活用した出前講座を開催し、新旧住民の交流のきっかけとなる場を作る。 ・センターの役割を周知する。	継続
		2.県営松が丘住宅自治会 ・住民同士のつながりの場を設ける		②令和5年4月以降、「お茶会」サロンを自治会が立ち上げた。月曜日：おしゃべり会と水曜日：カラオケを開催する。	・サロンは出来たが、参加者が固定している。住民が気になる人に声掛けしても参加しておらず、センターによる集いの場のニーズ把握が不十分であることがわかった。	・困りごとがあるときは住民同士で相談、助け合える関係ができる。 ・住民が困った時に適切な相談窓口につながる事が出来る。	・地域の会合等でサロンの状況を把握し、情報収集を継続していく。 ・住民よりサロン等の情報を求められた際、情報提供を行う。	その他

大蔵中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
大蔵中学校区	みんなでのジェボクウト認知症プロジェクト	認知症啓発について、自治会、サロン等にアプローチを行い、オレンジサポーター養成講座、認知症予防講座などを開催した。 シルバーサポーターやキャラバンメイトが主体的にオレンジサポーター養成講座、認知症啓発等を行えるようサポートを行った。	医療介護連携 権利擁護 認知症 総合相談 地域ケア会議 生活支援体制整備	太寺4丁目自治会で4回、東人丸町(にじの会)で1回、オレンジサポーター養成講座開催の依頼があり実施した。 松が丘小学校でのオレンジサポーター養成講座に、大蔵地区のシルバーサポーターも参加。シルバーサポーターとキャラバンメイト間で自発的に交流を行うことができた。	にじの会オレンジサポーター養成講座終了後、参加者より「自分も高齢のため他の人の支援ができると思えない。荷が重い」とオレンジリングとバッジを受け取れないという申し出があった。 オレンジサポーターは認知症の理解者であり、主体的に何かをしないという訳ではないと説明し受け取って頂いたが、今後は参加者の心理的負担にならない説明も心掛ける必要がある。	地域住民レベルで、自らが認知症当事者のサポーターであるという意識が浸透する。 今後オレンジサポーターが若い世代にも広がり、認知症にやさしいまちになる。 シルバーサポーター、キャラバンメイトが主体的にオレンジサポーター養成講座の開催や自主的な活動ができるようになる。	太寺4丁目自治会会長には、全世帯の半数の方にオレンジサポーターになっていただきたいという思いがある。今後も継続して太寺4丁目自治会にアプローチを行う。 認知症の正しい理解を啓発していくため、来年度はチームを立ち上げるための座談会を行う。	継続 継続
	小さな助け合いプロジェクト	圏域の主任介護支援専門員と共に地域課題について、圏域の介護支援専門員と社会福祉士のつながりを強化するための話し合いを行った。	包括的継続的 一般介護予防 地域ケア会議 総合相談 生活支援体制整備	センター主催で圏域の介護支援専門員同士の交流会を2回実施、地域課題の聞き取りを行った。また、民生児童委員・介護支援専門員との交流会を実施した。 まちなかゾーン会議の取組みで、生活課題の抽出アンケートを実施する予定だったが、まちなかゾーン会議メンバー内でアンケートの目的・内容について共通の認識が持てるようにするため議論を重ねた結果、生活課題抽出アンケートは令和6年度に実施することになった。	介護保険サービスだけでは利用者の生活全体をサポートしていくことが難しい。介護支援専門員と民生児童委員・住民との顔の見える関係づくりが必要である。 令和5年度は、坂道の生活のしづらさに焦点を当てていたが、大蔵地区の生活課題を把握する為、65歳以上の高齢者を対象に生活課題抽出アンケートを行うことになった。 まちなかゾーン会議では、高齢者の集い場づくりや見守り等の担い手育成が課題ではないかとの意見があったため、生活課題抽出アンケートに反映させていく。	介護支援専門員と民生児童委員、地域のつながりができると共に地域住民、商店等、地域の小さな助け合いを知ることができる。 まちなかゾーン会議メンバーとともに生活課題抽出アンケートを実施する。生活課題を把握し、まちなかゾーン会議として、大蔵地区での取り組み等の検討を行う。	居宅介護支援事業所巡回 民生児童委員と介護支援専門員との交流会 圏域の介護支援専門員の交流会 住民、商店、事業所等の見守り体制の現状把握、支援を行う。 まちなかゾーン会議での大蔵地区への生活課題抽出アンケート実施、取組の検討を行う。	継続 継続 継続 継続 継続

大蔵中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針	
大蔵中学校区	ストッブ閉じ込めプロジェクト	地域に向けた高齢者虐待防止啓発の方法を検討した。	権利擁護	上半期は、センターの主任介護支援専門員が居宅介護支援事業所の巡回を実施した。	居宅介護支援事業所の困難事例や支援のしづらさを聞きとることができた。特に複合多問題(8050等)や、経済的問題事例を複数聞き取る。次年度のセンターの取り組み、研修会に生かしていく。	センター、民生児童委員、専門職との顔の見える関係づくりと共に地域住民の小さな異変に気付き、どのような場面で相談を行ったらよいか共通の視点を持ち、理解できるようにする。	民生児童委員と介護支援専門員との交流会を行う。	継続	
		住民の集まる場、サロン等で高齢者虐待防止の広報啓発を行った。	認知症	センター主催で居宅介護支援事業所の交流会を2回実施、困難事例や地域課題の聞き取りを行う。			居宅介護支援事業所・サービス事業所巡回を行う。	継続	
		介護支援専門員、介護サービス事業所と顔の見える関係づくりを行う。令和5年度はサービス事業所を巡回を中心に実施した。	総合相談	下半期は、センターの社会福祉士が、居宅介護支援事業所への巡回を行い、権利擁護の視点で支援のしづらさ等の聞き取りを行う。	民生児童委員と介護支援専門員との交流会にて虐待、後見制度について啓発を実施した。	民生児童委員と介護支援専門員との交流会では虐待、後見制度の啓発にとどまっておらず、グループワーク等を通して地域住民の異変に気付く視点を共有していきたい。	地域住民や民生児童委員が住民の異変に気がついたとき、センターに相談をすることができる。	居宅介護支援事業所の交流会での勉強会を行う。	拡充
		専門職の方に対する高齢者虐待対応研修会の実施 上半期の相談内容を踏まえてテーマを決定する。	包括的継続的	市民講座を大蔵地区で1回実施し、25人が集まった。	特殊詐欺予防の啓発について、地域住民・専門職への広報の効果測定が難しい。だが、特殊詐欺被害、未遂も含めて増えており、今後も啓発が必要である。	特殊詐欺に遭わないように、住民同士で声をかけあったり、被害にあったと思われるときに速やかに相談窓口につなげる。	民生児童委員と介護支援専門員との交流会を行う。	ボランティア、地域住民等の集まる場での啓発を行う。	継続
		特殊詐欺被害の増加、住民向け、専門職向けに特殊詐欺予防の啓発、令和5年12月には、明石警察と協働し、大蔵コミセン市民講座にて住民に特殊詐欺の現状と予防に関する講座を行った。							

錦城中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
錦城校区全体	認知症について何かできない会	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症になってもならなくても暮らしやすいまちづくりを目指して、認知症について関心がある方が集まり、思いを共有し、(仲間として)つながりを持つことができた。何らかの活動に繋がるような催し「認知症について何かできない会」を計画する。 ・認知症当事者の話を聞くことが、目標達成に向けて有用であることからピアサポーターの活用に至る。 	認知症 総合相談 権利擁護 生活支援体制 整備	<ul style="list-style-type: none"> ・企画会議にキャラバンメイトにも参加してもらうことで、ともに会を作ることができ、活躍の場の一つとなった。 ・地域ボランティア活動者同士のつながりの場が提供できた。 ・参加者が認知症当事者の方の話を聞くことで認知症への理解を深めることができた。 ・当日22名の参加者を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者としての立場で参加する方がほとんどだと思っていたが、当事者とその家族の参加もあった。介護の抱え込みを予防する効果もあることがわかった。 ・認知症当事者の方の話を聞くことで、自分が認知症と診断されたときの場面をイメージして考えている方が多く、我が事として考えてもらうことにつながった。 ・「認知症について何かできない会」の継続開催を希望される声が多かった。 ・高齢者の参加割合が多かった。暮らしやすいまちづくりのために、もっと幅広い年齢層の住民参加が望ましい。今後の周知及び参加促進への工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに地域において認知症の理解者が増える。 ・幅広い年齢層の人にも「認知症について何かできない会」に参加してもらおう。（特に若年層） ・「認知症について何かできない会」が、もっと参加者の意見を反映した、満足度の高い会になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層が参加しやすいように土曜日に開催をする。 ・事前の打ち合わせにキャラバンメイト、学生（福祉科）などに参加してもらおう。 ・広報の方法を工夫する。（自治会の掲示だけでなく、地域の催しでチラシを配布するなど） ・認知症当事者の方の話を聞く機会を設ける。 	継続

錦城中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
錦城校区全体	支援者同士の繋がりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・10月10日に介護支援専門員と民生児童委員の交流会を開催した。 ・1月11日に明石市東部地区の介護支援専門員と医療機関の交流会を開催した。 ・介護支援専門員と後見支援センター等との連携において、問題を抱えている事例は確認されなかった。 	包括的継続的 生活支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員12名、介護支援専門員16名が参加し、それぞれの活動内容について説明を行い、その後、より良い連携をテーマに意見交換を行い、お互いに連携したいという意向が確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護の壁があり、本人の同意が取れない場合の連携が難しい現状を共有した。連携した経験のない民生児童委員、介護支援専門員がいることが確認できた。 担当者が変わった時や、対象者が入院した際など、連携のタイミングについて共有した。 ・基幹病院と連携する事業として、本部（市域）に取り組みを引き継いだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員と介護支援専門員が顔見知りになり、必要な場合に連携できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員と介護支援専門員の交流会を継続して開催する。 	継続
			包括的継続的 医療介護連携	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員19名、医療関係者より28名が参加し、低栄養をテーマに小グループで話し合いを行い、各専門職が携わった事例の共有や防止のための取り組みについて活発な意見交換をすることができた。今後実施してほしいという要望が確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員支援を通して、後見支援センターとの連携において問題が確認された際には、取り組み等について検討する。 			市域課題へ
			包括的継続的 権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員と後見支援センター等との連携において、問題を抱えている事例は確認されなかった。 				

衣川中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなっほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
王子小学校	あおふれい様地域づくりが	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が認知症についての理解を深めるため講座を行った。 ・民生児童委員やボランティア団体等、センターや他機関との関係づくり（課題等の情報共有）の場を計画した。 	認知症 包括的継続的 生活支援 体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・個人向けオレンジサポーター養成講座を9月15日に実施し、16名の参加があった。 ・介護支援専門員と民生児童委員との交流会実施に向け、民生児童委員協議会会長と打ち合わせを実施。センター圏域での開催ではなく、衣川地区として取り組むことに決まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防や認知症の方への対応について関心が高い意見があった。 ・介護支援専門員と面識のない民生児童委員がいると確認した。 ・多くの民生児童委員に参加してもらうために、交流会について民生児童委員協議会の定例会と同日の実施の提案があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症について理解している人を増やし、認知症の人がサロンや地域の集いの場に可能な限り通い続ける事が出来る。 ・一人暮らし高齢者等の地域自立生活に向けて民生児童委員と介護支援専門員が手を携えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人向けオレンジサポーター養成講座を実施する。 ・民生児童委員と介護支援専門員との交流会を実施する。 	継続
南王子地区	プロジェクト安心感育み	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし台帳及び、センターで対応する一人暮らしの方に関する相談から現状・問題を把握し健康課題の整理を行った。 ・あかし保健所の保健師が講師となり、老人性うつ等をテーマに介護予防教室を実施した。その中で、参加者同士での意見交換の機会を設けた。 	総合相談 一般介護 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課題として、整形外科疾患(骨折・狭窄症等25%)、認知症(18%)が生活の支障に関連しているという現状が確認できた。 ・生活課題としては、不眠、低栄養等が散見された。 ・まちなかゾーン会議主催の介護予防教室にて、うつ病とうつ病予防等に関する情報提供をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科疾患・認知症に関する情報提供を行っていない。 ・一人暮らしの方は、もし自宅で倒れたら誰に助けてもらうのだろうと不安の声があった。また、うつ予防をはじめ、一人暮らしの備えについて知りたいとの声があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者などが自分なりの予防や終活が行える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者等の備えとして以下の情報提供を行う。 ・もしもの備えシート ・救急れんらくばん ・整形外科疾患や認知症に関する予防等の基礎知識ほか 	継続

衣川中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなっほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
林地区	プロジェクト 気軽に相談	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会の広報紙にセンター紹介文を掲載することについてコミセン所長へ相談し了解を得た。 ・サテライト相談実施会場についてまちづくり協議会事務局に相談し、実施についての賛同を得た。 ・サテライト相談の実施について活用できる場所がないか、林校区まちづくり協議会と協議した。 	生活支援体制整備 総合相談	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会の広報紙への掲載について費用を要することが判明し、センター紹介記事の掲載は未実施である。 ・サテライト相談実施会場についてサロン代表者からサロンの場の活用について提案を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙の掲載を断念したことがセンターチラシの改訂版を作るきっかけとなった。 ・サロン参加者の多くがセンターについて知っていたが、その機能については知らない人が多かった。 ・子育てをされている方や将来介護をする可能性のある若い世代がサロン運営に携わられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン参加者をはじめ、住民がセンターの役割を知り、健康などの問題を抱える地域住民にセンターを紹介できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターチラシの改訂版を活用する。 ・高齢者にこだわらず、幅広い世代に向けセンターの役割機能を周知する。 ・サロンの場を活用し、実際に相談を受けられる機会を設ける。 	継続
港町・岬町周辺	足腰きたえて出かけたよ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民代表者と解決策を検討する。 ・買い物に行ける足腰維持を目指した健康教室やインターネットショッピングができるようになるためのスマホ教室などを開催する。 	一般介護予防 生活支援体制整備	当該地区のサロンで、足腰を鍛える運動などの情報を提供した。その際に、スマートフォンの利用実態について参加者にアンケートをとった。	足腰を鍛える運動などの情報提供がきっかけで、サロンで運動のプログラムを継続して行うようになった。 結果、多くの方がスマートフォンを利用しておらず、近くに住む家族等が買い物をしてくれていることが分かった。	サロン利用者が増え、足腰を鍛える住民も増える。 サロンで足腰を鍛えるプログラムが継続される。	サロンで足腰を鍛えるプログラムの継続を確認する。 加えて、飽きずに継続できるように足腰を鍛える新たなプログラム情報の提供などを行う。	終結

望海中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなっほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
望海	結んでつないで	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかゾーン会議（みんなの広場、地区座談会、健康教室）を課題解決に向けた場として活用する。 ・センターのカレンダーをツールとして商店等に配布し、センターの啓発と連絡しやすい関係性を作る。 	総合相談 一般介護予防 権利擁護 生活支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかゾーン会議主催の地域交流イベント「みんなの広場」を藤江小コミセンで11/18に開催した。準備のため座談会を14回開催した。30-40代の子育て世帯の住民にも参加してもらいスクールガードの後継者不足等の地域課題について協議できた。 ・まちかど健康教室、サテライト相談を3小学校区で38回開催した。 ・カレンダーを472枚配布した。（うち商店・企業など46枚） 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間でそれぞれ地域の課題は感じていたが、全体で共有する場が設定できていない。 ・カレンダー配布により、センターの周知を図り、地域の機関と対面での関係性づくりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の年代を超えた交流が継続して行われることにより、住民同士のつながりが強固となり、困りごとの相談、発見が早期に行われる。 ・商店、企業などからも困りごとの相談、発見が早期に行われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貴崎校区でみんなのひろばを展開し、地域住民と地域課題について考える機会を作る。 ・カレンダーの配布を継続する。 	継続

望海中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなしてほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
望海	予望海護「ACPツール補完計画」	<ul style="list-style-type: none"> ・「にしあかし版人生会議」の配付後の取り扱い状況について分析する。 ・人生会議の効果や活用状況を確認するため居宅介護支援事業所への巡回を行う。 ・シルバーサポーター・キャラバンメイト交流会を開催する。 	医療介護連携 総合相談 権利擁護 包括的継続的 一般介護予防 認知症 生活支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所への巡回を9事業所に対して実施した。事業所に対し、地域活動への協力や人生会議の取り組み状況などを聞き取った。 ・藤江校区で座談会を14回開催した。メンバーには30, 40代の保護者も参加してもらい、地区課題について多世代で協議している。また人生会議に関する情報提供も行った。 ・キャラバンメイト交流会を12月に開催した。 ・オレンジサポーター養成講座を6月（中学生向け35人）、7月（個人向け40,50代6名）に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所への巡回より人生会議は知っているが、実際取り組んだことが無い、シートの利用法が浸透していないことが分かった。 ・世代間でそれぞれ地域課題を感じていたことが分かった。令和6年度は貴崎小学校区のみなの広場でも同様の取り組みを継続していく必要がある。 ・人生会議を知らない地域住民は多かったが、知る、興味を持ってもらえるきっかけづくりができた。 ・地区のキャラバンメイトと顔の見える関係性ができ協力依頼がしやすくなった。 ・現役世代に認知症についての周知はできたが、「認知症に理解ある地域」になったかどうかを評価することは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生会議の利用方法が浸透し、話し合った内容を形に残すことができるようになる。 ・多世代の地域住民に対し人生会議の理解が進む。 ・地域で認知症に対する理解が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生会議の内容を形に残す取り組みについて、研修や交流会で啓発する。 ・キャラバンメイトと協力して、多世代に対しオレンジサポーター養成講座を行う。 	継続 継続
望海	ニナゾー	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に活動してもらうために健康測定会チラシで協力ボランティアを募る。 ・シルバーサポーター・キャラバンメイト交流会を開催する。 	生活支援体制整備 総合相談 一般介護予防 認知症	<ul style="list-style-type: none"> ・9サテライト相談会に4名のボランティアの協力があつた。 ・藤江校区で座談会を開催し、担い手不足について若い世代も含めて協議ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力してもらったボランティアが居場所づくりの即戦力になる為の仕組みが必要。 ・若い世代でも担い手に関心がある事が分かり、SNSなど情報共有のツールを活用すれば、新たな担い手の発掘に繋がる可能性がある。 ・50代以下への認知症の啓発を行ったところ、担い手に関心がある参加者もいたため、活動に繋げる仕組みが必要だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動者が増え、居場所やつどいの場が増える。 ・広い世代に情報発信するツールができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教室などにボランティアの参加を募る。 ・2次元コードをチラシや広報誌、カレンダーに用い、住民に対し明石市社会福祉協議会やセンターの周知を図る。 	継続

野々池中学校区 地域支援報告書 (令和5年度事業報告書)

プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価(目標を達成できたか? 達成状況)	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい(展望、最終目標)③	来年度はこうする④	方針
備えよう野々池	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職や介護経験者・キャラバンメイトが主体となり地域で高齢者や認知症の方の理解促進につながる場(講座)を提供する。 ・地域活動者やキーパーソンとなる住民へ高齢者や認知症の方の理解促進につながる情報を伝え、活動の必要性の共有、協議の場の立ち上げ、運営支援を行う。 ・参加者同士が自身の悩みを抱えることなく、相談しやすい関係性を構築できる。 ・小・中学生やその保護者・介護支援専門員等の専門職が人生会議、認知症等を正しく理解することができるようにした。 	総合相談	<ul style="list-style-type: none"> ・講座開催について、沢池校区のサロンの方針とセンターの考えた課題にずれがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンでの講座の開催は難しいが、住民主体で高齢者や認知症の方の理解促進につながる場があることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体で高齢者や認知症の方の理解がさらに深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沢池地区のサロンで虐待や詐欺防止、後見、終活、認知症についての講座を実施する。 ・地域別で相談内容の分析を行う。 ・既存の健康測定会の支援をしながら、住民で実施していけるように検討する。 	継続
		権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康測定会や講座にて子供から高齢者に向け認知症や人生会議の啓発を5回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生会議のアンケートを取り高齢者には人生会議が浸透しつつあることが分かった。 ・圏域内の学校に人生会議・認知症アプローチが出来ていないため、アンケート、人生会議の資料の配布方法を調査していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が認知症や人生会議について知る機会が増える。(小学校、中学校、高校、大学) ・キャラバンメイト交流会等でキャラバンメイトとの関係を構築でき、キャラバンメイト自身が地域課題を見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・笑くぼ(健康相談会)で県立看護大学と協働で健康講座を実施する。 ・民生児童委員と介護支援専門員の交流会を開催する。 ・相談件数の分析を各小学校区で実施する。 	継続
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラバンメイトを取得している専門職にオレンジサポーター養成講座の講師を依頼するなど、地域活動へ参加しやすくなるよう働きかけを行う。 	生活支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラバンメイトを取得している専門職(後見支援センター、居宅介護支援事業所、福祉用具事業所の職員)と協働し3回の講座を支援した。 協力事業所は7か所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職と協働することで関係性作りができ、多世代の地域住民へ認知症や人生会議の啓発が必要だという課題の共有ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職の地域活動への参加が継続できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員と介護支援専門員の交流会を開催する。 ・相談件数の分析を各小学校区で実施する。 ・キャラバンメイトを取得している専門職にオレンジサポーター養成講座の講師を依頼したり、地域活動に参加してもらえるよう関係構築を図る。 	継続

野々池中学校区 地域支援報告書 (令和5年度事業報告書)

プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
集 ま ろ う 野 々 池	<ul style="list-style-type: none"> ・松の内で既に行われている活動が無いか再調査する。 ・再調査の結果活動が無い場合は自主グループの立ち上げ支援を行う。 	一般介護予防 生活支援体制整備 包括的継続的 医療介護連携 地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none"> ・松の内の民生児童委員に聞き取り調査を実施。 個人向けオレンジサポーター養成講座を実施し、中心となる地域活動者を発掘する場としたが、該当者がいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館が会合等以外で活用されていない事が分かった。 理由として公民館使用料が高額なことや、集まりの立ち上げの中心人物がいないこと等が考えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松の内での健康測定会やマルシェが開催できる。 ・松の内公民館を利用した活動の場ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松の内公民館で健康測定会を立ち上げる。 	継続
	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の健康測定会の継続支援を行う。 ・新たに1か所健康測定会の立ち上げを検討する。 	総合相談	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の健康測定会3回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民自ら企画運営できるようになりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が負担感が強くないように、健康測定会を企画する。 ・西明石東町測定会が住民主体で開催できる。 測定会をきっかけに住民同士のつながりができ、サロンや健康体操（自主活）の定期開催に繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体での測定会が行えるよう支援していく。 	継続
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康測定会に介護支援専門員や福祉用具事業所等の専門職が参加できるよう協力を依頼する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康測定会に圏域内居宅介護支援事業所2名参加した。 ・福祉用具展示会を実施し、圏域の居宅介護支援事業所、福祉用具事業所、デイサービス、後見支援センターの専門職と地域が協力し開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した専門職は今後も地域活動に参加したいと協力的だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と専門職が協力しながら催しを実施し、地域の活動が活発化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職へ地域活動への参加要請を継続する。 ・このような活動が広がるように情報提供する。 	継続

大久保中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
大久保中学校区全域	地域での相談を早期に受けようプロジェクト	<p>【1】民生児童委員協議会や地域のサロン、地域活動の場においてセンターで相談を受けた事例紹介を行うことにより、センター機能や役割等について周知・啓発活動を行う。</p> <p>【2】地区の民生児童委員や地域住民と情報共有を図る場を設定してニーズを聞き取る。</p>	総合相談 地域ケア会議 権利擁護 認知症 包括的継続的	<p>【1】広報紙、センター啓発チラシ等を地区内サロン8か所、自主活6か所、民生委員、コミセン、みんなの給食、認知症カフェ、子ども食堂、見守り隊に配付。センター機能や役割について周知、啓発を行った。</p> <p>・7月29日大久保南小学校夏祭りにて、健康測定(握力測定)のブースを出展。握力結果記入用紙裏にセンターチラシを記載し、主に子育て世代へ向けたセンターの周知、啓発を行った。</p> <p>・9月19日、20日の2日間で大規模商業施設にて福祉相談ブースを出展しセンター周知を実施した。</p> <p>【2】認知症事例について、当事者が居住しているマンションの自治会と話し合いを実施。マンション内のサロン活動が休止しており、自治会としても再開の必要性を感じているとの意見を聞き取り、再開に向けての話し合いを行った。</p> <p>・民生児童委員と協働し地域のサロンにて「今後の生活について」のテーマにて人生会議の初期段階の講話を実施した。</p>	<p>・センター機能や役割等についての周知・啓発活動を行う中で、センターに寄せられた事例についての地区別の分析を行った。センターで重点的に対応した事例は48件。</p> <p>1.藤が丘地区9件 2.大久保町地区8件 3.ゆりのき地区6件</p> <p>各地区の人口（藤が丘地区1948人、大久保町地区の人口6905人、ゆりのき地区6166人）から相談件数をみると、藤が丘地区の相談割合が多く、外部機関へご自身の相談がしづらかった事例が見られた。なお、藤が丘地区は高齢化率が1丁目46.3%(75歳以上27.1%)、2丁目40.1%(75歳以上25.5%)と明石市の中でも高い地域であり、今後も支援が必要な事例が見込まれる。センターに少しでも早く相談いただけるように周知を行っていく必要がある。</p>	<p>・高齢者が集う場に出向くことで、顔の見える関係ができると共に、地域活動の参加者にセンターの役割が広く周知され、相談するというハードルが下がる。</p>	<p>・現在関わっている地域活動や地域資源、フォーマルサービスとの連携を密に行い、地域の情報を収集する。</p> <p>・センター主催での行事を通して、広く地域住民にセンターが公的な相談窓口であるとの周知を行っていく。</p>	継続

大久保中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
大久保中学校区全域	地域活動の担い手発掘プロジェクト	・居住地域について住民が興味・関心を持ち、主体的に地域活動へ参加していただく為に、養成講座を実施する。	生活支援体制整備	・はじめての地域活動講座を開催。大久保市民センターにて、4月27日、5月18日、6月1日の3回講座を地域総合支援センター本部主催で開催。参加者へ生活支援の現状と課題について説明を行った。また、グループワークにて参加者から参加のきっかけや、どのような活動に興味を持っているか等グループ内3名の参加者より伺った。 ・大久保圏域内参加者は、既に地域で主となり活動されている方や、シルバーサポーター受講者、サロン等での活動に結び付いている方であり、講師側になってもらうような方々であった。	・興味ある活動や意欲等伺うことが出来たが、既に活動されている方々ばかりであり、そこから適切な活動場所へコーディネートしていく必要性がなかった。 ・大久保地区だけの資源把握ではなく、市内全域の生活支援コーディネーター等と連携を行いながら、より多くの資源を把握していく必要がある。	・活動者のつながりの輪を増やしていき、より活発な地域活動が出来るようになる。 ・シルバーサポーターや、認知症サポーター養成講座受講者からも活動意欲のある方を探していく。	・地域のサロンをまわり、担い手についてのアンケートを行う。そこから新たな担い手とのマッチングを検討する。	その他
大久保中学校区全域	各々にとって心地よいつながりプロジェクト	・それぞれの立場で考える地区の課題を共有して、地区を再確認する。 ・各々に合った有益な情報について検討する。	地域ケア会議 生活支援体制整備	・6月20日、第1回まちなかゾーン会議にて、保健行政部門や保健医療関係者から地区の特徴や課題を提示し、3小学校区に分かれて地区の問題点について意見交換を行った。 ・2回目まちなかゾーン会議から、3小学校区に分かれて課題と課題に向けた取り組みの意見交換を行い、第4回目には地域で取り組む方向性や目標、具体策が決まった。大久保地区では、歯の健康づくり、大久保南地区では、防災、谷八木地区ではフレイル予防の取り組みを通して、世代を問わず、つながりを作る事の必要性を住民と共に考えていく機会を作る。	認知症に関わる警察からの相談について今年度大久保地区は28件あり。 1.ゆりのき地区8件 2.大久保町5件 3.谷八木地区・八木地区各4件。 また、ゆりのき地区で重点的に対応した事例6件のうち4件が認知症による相談であった。また、明石市の人口増加のうち75%はこの地区に集中しており、20年間で人口が倍増した転入者の多い地区である。20代や40代50代の増加により高齢化率は15.99%と低率だが、高齢化率は年々上昇している。若い世代も含めた地域住民全体に認知症の正しい理解を広めていく必要がある。	若い世代も含めた地域住民全体に認知症の理解を広げ、認知症になっても住み続けることができる町を目指す。 転入者が多く、顔の見える関係が築きにくい、地域とのつながりや多世代交流の機会を持ち、防災に強い町、次世代がいきいき暮らせる町を目指す。	【1】自治会、まちづくり協議会などに認知症の正しい理解を広める活動をする。 商業施設や金融機関、医院などが多い地域のため、それぞれの機関と連携が取れるような関係づくりを継続的に進める。 ※令和5年の事業計画書の課題について、まちなかゾーン会議を主軸としたつながりづくりへ令和6年度計画を見直している。 【2】まちなかゾーン会議にて、地域の団体等と防災について一緒に検討できる関係づくり、及び小地域で多世代交流やつながりづくりを目的とした取組を行う。	継続

大久保北中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
緑が丘	緑が丘いいとこ探しプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン参加者の参加ニーズを把握するためヒアリングを実施 ・地域のキーパーソンに対するヒアリングを実施し、実際の地域課題の確認と今後のアプローチ方法の見極めをする。 	総合相談 認知症 権利擁護 地域ケア会議 生活支援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、他地区と合同で地域課題の解決に向けた地域ネットワーク会議を実施予定のため、その流れをくみながら必要があればアンケートを検討する。 ・自治会長に依頼しセンターのチラシ回覧を実施。安否確認事業の登録者3名を訪問し、生活状況聞き取り。地域ネットワーク会議を開催。地域の課題を参加者と共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ネットワーク会議で、花壇の整備やボランティア活動の効果を共有。多世代との交流や後継者問題についての課題が挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合った情報収集の方法で、必要な情報を入手できる。 ・地域の実情に即したボランティア活動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回地域ネットワーク会議を開催。参加者から、多世代交流についての課題や後継者がいないという地域課題の問題点についてヒアリングを実施し、今後のアプローチの方向性を検討する。 	継続
西脇	西脇地域活動継続プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ①高年クラブと自主活の協力体制のきっかけづくりを行いつつ、地域の集いの場の継続を支援し、活動が途絶えないようにする。 ②現在、サロンに来ている人が継続して来られるように後方支援を行う。 	総合相談 一般介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ①高年クラブ会長から自主活が無事に立ち上がっている事を確認した。また、世代間交流についての希望も聞き取った。 ②高年クラブ新規加入者を増やしたいという希望を聞いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自治会や地域行事は、昔から住んでいる住民の方達で行っており新しく転居してきた住民の方が入りにくい状況。子どもが多く、世代間交流の希望も聞かれた。地域行事には子どもが多く参加するなどの強みもある。 ②令和7年西脇会館の建て替えが決まり、建て替え中は近くの建物で活動を継続される見通し。高年クラブの活動を住民が知る機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①既存の行事を活かして、子ども会、自治会、高年クラブで話し合いができる。世代間交流の活動が活発になる。 地域行事や活動を周知し、新住民の参加や高年クラブ会員数が促進される。 ②西脇会館建て替え中も、地域の活動が継続できる。 	高年クラブと自主活については、継続して活動が行われており、問題なく継続出来ているため、課題解決した。活動拠点である西脇会館が、今年度建て替えの予定であるため、活動規模が縮小されている。再建後、新たに活動が再開された時に、新たな課題について検討を行う。	中止

大久保北中学校区 地域支援報告書（令和5年度事業報告書）

対象	プロジェクト名、課題No.	やったこと、実績、計画した課題①	当てはまる事業	評価（目標を達成できたか？達成状況）	やってみてわかったこと、残った問題②	更にその先に最終的にこうなってほしい（展望、最終目標）③	来年度はこうする④	方針
大窪南北市住	市住みまもり隊	・民生児童委員、協力委員の見守りネットワーク機能を強化するために、担当地区の民生児童委員と情報共有、連携をさらに充実させる。	総合相談	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の地区担当職員と担当民生児童委員とで顔合わせを行い、市住の居住者に関する課題について確認できた。 ・民生児童委員と住宅課から3件（認知症や障害者の居る世帯）転居の相談を受けている。 ・住宅課と連携をとりながら、介護保険申請代行などの支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り壊しの方向性が決まっている。時期は未定だが、転居のための支援が必要となる可能性がある。 ・複合多問題のある世帯が多く、転居のための手続や支援が必要な状態である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員と連携を取りながら転居への支援ができる。 ・高齢者世帯、複合多問題のある世帯が必要な時にすぐに支援につながる。民生児童委員と見守りが必要な世帯の共有ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・転居後も必要な支援を継続して行う。 ・転居地の民生児童委員との連携を行う。 ・転居地の地域資源へつなぐ。 ⇒R6年度は、生活見守りプロジェクトに改名	拡充
ゾーン	大久保北地区まちなかゾーン会議	・他団体と話し合うことで、大久保北地区内の支援活動の相互理解をすすめ、「顔が見える関係」づくりが出来るように支援する。	地域ケア会 生活支援 体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・参加団体同士の横のつながりを強みとして、防災をテーマに取り組む事となった。 3年計画として、今年度は防災の知識を深めるために講話を聞く事となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター主導となりがちである。発言が控えめな団体もあり、意見が偏りがちとなっている。 それぞれの思いはあるが、意見がまとまりにくく、まちなかゾーン会議の意義が不明確となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加団体がまちなかゾーン会議の役割を理解し、主体的に取り組む事ができる。北地区の要援護者が住み慣れた地域で、災害があっても安全安心に暮らしていくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかゾーン会議の役割を考え直し、防災イベントの内容を決定する。 	その他